

寫送先

秘書官 會計 文書 人事 調查 文書 情報 條約 通商 米洲 歐亞 東亞

次官 大臣

電信課長

極秘

昭和12 三四 暗 上海 二日後發
本省 一月二日夜着 亞

有田外務大臣 川越大使

第一號(極秘)

西安事件ノ妥協條件ニ關シ「アーベンド」カ信スヘキ筋ヨリ得タル
情報トシテ同盟松本ニ内話セル所ニ依レハ同條件ハ

(一) 共產軍トノ停戦

(二) 共產軍ヘノ補助金交付

(三) 南京政府ノ改組(人民戰線派ノ者ヲ入ルルコト)

(四) 南京政府ノ「ソビエツト」人顧問ノ招聘

等ヲ含ミ居ル趣ノ處「ア」ハ右情報ヲ「バイヤス」ニ電報シ東京

外務省

S 161527 002

寫送先

秘書官 會計 文書 人事 調查 文書 情報 條約 通商 米洲 歐亞 東亞

次官 大臣

電信課長



昭和12 二一 略 南京 一日後發
本省 一月一日後着 亞

有田外務大臣 川越大使

第一號

學良ハ昨三十一日ノ高等軍法會議(審判長李烈鈞、審判官朱培德、
鹿鐘麟)ニ於テ徒刑十年並ニ五年間公權褫奪ト判決ヲ下サレタリ
尙右ニ對シ蔣介石ハ國民政府ニ對シ特赦ノ請願ヲ提出セリ

上海大使、在支各總領事、北平、滿ヘ轉電セリ

上海大使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

外務省

S 161527 001

ヨリ紐育「タイムス」ニ打電セシメタル由
 右ニ關シ「チャンセラ」カ「ドナルド」ヨリ聞込ミタル所モ前記
 (二)ノ條件ヲ除キ章乃器一派ノ釋放ヲ條件トシ居ル以外大體同様ニテ
 「ド」ハ章乃器一派ノ釋放如何ニ依リ南京側カ果シテ斯ル妥協條件
 ヲ容レタリヤ否ヤ知り得ヘシト見居レル趣ナリ
 右聞込ノ儘(了)

外務省

S 161527 003

電信課長

大臣
 次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和12 三八 暗 北平 二日後發 一月三日前着 本省 亞

有田外務大臣 加藤書記官

第一號ノ一

二日王。芳。亭。カ極秘トシテ館員ニ内話セル所左ノ通り何等御參考迄

一、西安事變ノ解決ハ表面傳ヘラルルカ如キモノニハアラスシテ事實
 ハ全ク蔣介石ノ學良ニ對スル屈服ナリ蓋シ蔣ハ西安ニ於テ學良ノ
 政治的要求條件八箇條ヲ悉ク容認セルノミナラス軍餉及外匯各四
 千萬元計八千萬元ヲ學良ニ支給スルコトヲ約シ英米ノ斡旋保障ニ
 依リ釋放セラレタルモノニシテ學良ノ南京同行ハ右條件ノ履行督
 促ノ爲ニシテ罪ニ服スルカ爲ノ南京入トカ外國亡命説トカ軍事委

外務省

外務省

S 161527 004

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長



昭和12

三九

暗

北平

本省

二月三日發
一月三日前着

亞

有田外務大臣

第一號ノ二

加藤書記官

ニ國民政府トシテハ蔣カ容認セリトテ學良要求ノ條件全部ヲ容ルル
譯ニハ行カステニ其ノ容共ノ主張實行ニ最困難ヲ感シ居ル處政府
ノ改組ハ必至ニシテ形式上二月十五日ノ中央全體會議ニ附議シ決
セラルヘク宋子文ノ行政院長ハ先ツ動カヌ所ト見ラレ今後右改組
ヲ繞ル政局ノ動向事態ノ推移ハ特ニ注意ノ要アリ蔣ハ學良ト政府
ノ板挟ミトナリ立場ニ窮シ居ル外今次ノ失敗ニ依リ其ノ精神ニ激
動ヲ受ケ心臓ヲ病ミ居ルハ事實ニシテ恐ラク再起不可能ナルヘシ

送付

外務省

S 161527 006

員會ノ判決ニ對スル蔣ノ特赦請願トカ前官復職等々眞シヤカニ發
表セラルル西安事變善後措置ノ數々ハ南京政府カ内外ニ對スル體
裁ヲ繕ハンカ爲ノ苦肉ノ宣傳ニシテ制裁ハ芝居ノ筋書ナリ(續ク)

外務省

S 161527 005

寫送先

秘書官 會文 人調 文情 條通 米歐 東亞

大臣 次官

電信課長



昭和12 四六 略 南京 一月三日後發 亞
 本省
 有田外務大臣
 第二號
 川越大使
 蔣介石ハ陳布雷等帶同昨二日奉化ニ飛行セリ
 上海大使、北平、天津、滿へ轉電セリ

外務省

S 161527 008

三、三十日ヨリ三十一日ニ亘リ陝北ノ共產軍ハ中央軍關麟徵ノ二箇師
 及山西軍舊李生達部ノ二箇營ノ武装解除ヲ斷行シ更ニ楊虎城部隊
 ハ再ヒ西安ニ兵變ヲ起シ昨一日楊ハ南京側ノ條件不履行ヲ糺彈セ
 ル通電ヲ發シタル報道アル處右ハ何レモ南京側ニ對スル示威手段
 ト見ラレ學良カ一日急遽南京ヨリ西北ニ飛ヘルハ之カ爲ナリ云々
 支、上海大使、滿、在支各總領事へ轉電セリ
 上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

外務省

S 161527 007

電信課長

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調查
人事
文書
會計
秘書官

寫送先

昭和12

六五

暗

南京

一月

四日後發着

亞

有田外務大臣

川越大使

第三號

西安事件ト共產軍トノ關係ニ關シ四日紐育「タイムス」「ステイー」ノ須磨ニ對スル内話左ノ通

一、張學良所有飛行機米人操縦士ノ談ニ依レハ同人ハ張ノ命ニ依リ十

二月十八日「ソヴイエト」區域ヨリ共產軍領袖六名ヲ西安ニ運ヒ

其ノ内ニアリタル周恩來ハ三回蔣介石ト面會セル趣ナリ

二、學良事變ト同時ニ西安ニ於テ中央所屬飛行機三十臺ヲ押收セル處

西安「テキサコ」社員「デヨーヂ、フイツチ」ノ談ニ依レハ右ヲ

外務省

S 161527 009

飛行不能ナラシムル爲「ソ」區域ヨリ蘇聯人技師ヲ飛行機ニテ呼
寄セタル由

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、在支各總領事、滿へ轉電セリ

外務省

S 161527 010

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 一二九 暗

濟南 本省 一月五日夜着

亞

有田外務大臣

有野總領事

第一號

本官發支宛電報

第一號

客年支宛往電第二一〇號ニ關シ

省政府外交科長王子明。三日本官ニ對シ韓復榘及宋哲元ノ通電ハ十二月中旬以來當地滞在ノ何其鞏カ葛光廷（往年張學良ノ部下タリシコトアリ）ト相談ノ上勝手ニ起案シ韓力麻雀ニ夢中ニナリ居リタル席上ニテ一覽セシメ更ニ宋哲元ノ電報承認ヲ求メテ發電シタルモノニ

32

外務省

S 161527 011

シテ韓ハ別段深キ用意アリタル次第ニアラス寧ロ何ノ策動ニ乗セラレタルモノナルカ何ハ先般來青島市長ヲ狙ヒ頻リニ韓ノ援助ヲ求メ居リ今回ノ通電起草ノ目的モ韓及宋ノ政治的聯絡ニ自己ノ勢力アルコトヲ示シ自己ノ存在ヲ認メシメントスル小細工ノ一ニ過キス現ニ蔣伯誠カ中央ヨリ來リ韓ニ對シ通電ノ不都合ナルヲ責メタルニ對シ韓ハ一モ二モナク其ノ輕舉ヲ詫ヒ尙通電カ何ノ起草ナル旨ヲ答ヘタル結果蔣ハ何（ヲ）叱責シ遂ニ兩者間ニ非常ナル激論行ハレ結局韓カ調停役トシテ兩人ヲ引分ケタル驍アリタル旨内話セリ右王ノ話ハ稍辯解ガマシキ言分ナルヤニ認メラルモ兎ニ角何カ最近青島市長ヲ狙ヒ頻リニ運動シ居ルコトハ他ヨリモ聞込モアル處客年青島發大臣宛電報第三二〇號ノ次第モアリ聞込ノ儘御參考迄

外務省

S 161527 012

寫送先

秘書官 會計書 文書 人事 調查 文書 情報 條約 通商 米亞 歐亞 東亞

次大臣

電信課長



昭和12 一六三 略 南京 六日後發
本省 一月六日後着 亞

有田外務大臣 川越大使

第七號

昨五日軍政部ニテ發表セル整理陝甘軍事辦法中主ナルモノ左ノ如シ
一、顧祝同ヲ西安行營主任ニ任シ軍事委員會委員長ノ命ヲ受ケ陝、甘、青、寧ノ軍事ヲ總理セシム
二、王樹常ヲ甘肅綏靖主任ニ任ス
三、楊虎城ヲ西安綏靖主任ニ、馮欽哉ヲ第二十七路軍總指揮ニ任ス楊虎城、于學忠ハ自ラ處分ヲ請ヒタルカ寬ニ從ヒ職ヲ撤シタル儘留任セシメ(事實ハ事務ヲ執ラシムル意ナリ)罪ヲ帶ヒ功ヲ計ラシ

張
外務省
發送済

外務省

S 161527 014



大臣、北平、在支各總領事へ轉電セリ
支ヨリ南京へ轉報シ上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

外務省

S 161527 013

寫送先

秘書官 會計書 文書 人事 調查 文書 情報 條約 通商 米亞 歐亞 東亞

次官 大臣

電信課長

外務省

昭和12 二三五 略 上海 七日後發
 本省 一月七日夜着 亞、情
 有田外務大臣 川越大使
 第一一號

最近當地ニテ入手セル西安發行解放日報ニ依レハ蔣介石ハ十二日學
 良ヨリ提出セル八項目ヲ二十五日離。映。迄ニ全部容認シ尙同日出發直
 前楊虎城ニ對シ

(一)入關ノ中央部隊ニ明令シ二十五日ヨリ潼關外ニ撤退セシメ又同日
 以後若シ内戰發生スルコトアラハ余(蔣)個人ニテ責ヲ負フヘシ

(二)内戰ヲ停止シ國力ヲ集中シ一致外ニ對ス

(三)政府ヲ改組シ各方需ノ人材ヲ集中シ抗日主張ヲ容認ス

S 161527 016

四軍駐屯地替(公信報告)

五軍餉ハ從前ノ通り發給シ西安ニ軍需分局ヲ設ケテ辦理ス

六邵力子ノ辭職ヲ許シ孫蔚如ヲ陝西主席ニ任ス

上海大使、北平、在支各總領事、滿へ轉電セリ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

外務省

S 161527 015

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長



昭和12 二三四 暗

南原 本省

七日後發 一月七日夜着

亞

有田外務大臣

川越大使

第一四號

本七日吳震脩力主トシテ宋子文ヨリ聞キタル所トシテ須磨ニ内話シタル所左ノ通

一、西安事件發生スルヤ英國側ハ狼狽シ先ツ宋子文等ト協議ヲ重ネタル上英國大使ヨリ「ドナルド」ニ西安行ヲ勸メ蔣介石ノ生死ヲ確メシムルコトトシ「ド」カ西安ヨリ洛陽ニ歸リ蔣カ生存セルコト明カトナルヤ英國大使ハ孔祥熙ニ學良ノ安全ヲ列國側ニテ保障スヘキ旨申入レタル次第ナリ

外務省

S 161527

018

外交政策ヲ改變シ中國ノ民族解放ニ同情アル一切ノ國家トノ聯合ヲ實行ス
(五)上海ニテ逮捕サレタル領袖ノ釋放ハ直ニ行フ
(六)西北各省軍政ハ張、楊兩將ニ於テ其ノ全責ヲ負フコトトスヘシトノ具體的意見ヲ表示シタル旨報道シ居レリ
支、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ

外務省

S 161527

017

三、宋子文ノ觀測ニ依レハ學良ハ梅毒症[?]ノ爲カ腦ニ異狀ヲ來セルニア
ラスヤト思ハルル程言動支離滅裂ニシテ先ツ蔣介石ノ日誌ヲ見テ
十九、二十日ノ兩日泣キ喚キ宋子文、宋美齡ノ兩人ヨリ二十二日
ニ至リ滯英中ナル學良ノ妻子及學良ノ財產ハ宋子文ノ手ニテ安全
ニ計フヘキ旨ヲ説キタルニ飄然トシテ政治的主張等忘レタカノ如
ク自己ノ一身ノ保全ノミヲ顧念シ蔣介石ヨリ其ノ保障ヲ得ルヤ事
實無條件ニ蔣介石等ノ釋放ヲ快諾シタル處學良ノ部下及楊虎城等
ハ學良ノ遺口ニ不安ヲ覺エ二十四日朝ノ如キハ蔣介石ハ勿論學良
モ共ニ血祭ニ上ケントスル程ノ勢ナリシ爲宋子文等ハ二十四日夜
一睡モセサリシ程ナリ

三、二十五日蔣介石等ヲ見送ノ爲ナリトテ來ル學良ハ離陸ノ際突如

外務省

S 161527 019

操縱士ノ傍ニ坐リ機中ヨリ楊虎城ニ自分ノ南京行ヲ告ケ且麾下軍
隊ノ處分ヲ依頼セル實狀ナレハ蔣介石モ學良ノ言動カ餘リニ子供
ラシキ爲却テ同情シ歸寧後中政會議等ニ對シ穩便措置方ヲ特ニ申
入レタル譯ナリ

四、蔣介石ハ結局軍事ノミヲ采配シ汪精衛ヲ迎ヘテ黨部ヲ統轄セシメ
行政ニハ宋子文又ハ孔祥熙ノ話ハアルモ蔣介石ハ汪トモ相談ノ上
王寵惠ヲ行政院長タラシメ張群ヲ飽迄外交部長ニ据エ蔣ハ之ヲ通
シテ行政院ヲ采配スルナラント觀測セラレ居レリ

上海大使、北平、在支各總領事、滿へ轉電セリ
厦門ヨリ福州へ轉報アリタシ

外務省

S 161527 020

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12

二一八

暗

天津 七日後發
本省 一月七日後着

亞

有田外務大臣

堀内總領事

第一號

六日他用ニテ來訪ノ李景蘇（汪精衛ノ親友ニシテ汪ノ日本側トノ聯絡係ナリシカ）昨今李恩浩ノ日本側トノ聯絡係ヲ勤メ居レリハ本官ニ對シ蔣介石ハ西安ニ於テ學良ノ要求ヲ斷然拒絕シ宋子文ニ於テ英米ヲ「バック」トスル聯俄ヲ勸メタルモ受入レサリシカ宋子文ハ更ニ宋美齡ヲ伴ヒ重ネテ蔣ニ對シ外遊中ノ汪精衛ハ獨、伊兩國要路ノ大官等ト會見兩國間ニ反蘇同盟アルヲ聞カサレ汪ハ支那カ之ニ加入スルコト將來生キル途ナリト「コミット」シ居レルニ付（右ハ何應

外務省

欽ト聯絡ノ上ナル由）早キニ及ンテ決意ノ要アル旨慈漁セル結果西安脱出ノ運トナレルモノナルモ一方蔣ハ南京ニ於テ部下軍隊（主トシテ軍官學校卒業生）ノ聯俄反對ニ遭ヒ苦境ニ立チタル爲一時態度ヲ曖昧ニシテ奉化ニ赴キタリ歸京ノ上ハ右軍隊ノ意嚮ヲ口實ニ聯俄ノ約束ヲ破ルノ態度ニ出ツルニアラスヤト觀測セララル旨内話セリ右ハ北平ニ於ケル汪反對派（東北系ノ者多キ由）ヨリ出テタルモノノ如ク汪ノ歸國ヲ「チエツク」スル爲ノ宣傳カトモ思ハルルモ御參考迄

支、上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ

支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ、廣東ヨリ福州へ轉報アリタシ

外務省

S 161527

022

S 161527

021

極秘

電信課長

大臣
次官

東亞 歐洲 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 三〇四 暗

北平 八日後發
本省 一月八日夜着

有田外務大臣

加藤書記官

亞

第一一號ノ一(極秘)

本八日本官英國大使「ヒューゲッセン」ヲ挨拶ノ爲往訪ノ際同大使ノ爲セル内話要領左ノ通

一、日本カ支那ニ對シ重壓ヲ加ヘ攻略ヲ行フ間ハ支那ノ抗日ハ終熄セサルヘク日本側ニテハ頻リニ支那ノ排日ヲ云々スルモ自分ノ考ヲ率直ニ言ヘハ支那ノ抗日ハ日本自身作り居ルモノニテ此ノ點日本政治家ノ猛省ヲ促シ度ク殊ニ北支ニ於ケル日本軍ノ行動、綏遠問題等ハ支那ノ抗日ニ拍車ヲ掛ケタルモノト思考セララルル處此ノ際

外務省

S 161527

023

日本カ穩健公正ナル政策ヲ以テ支那ニ臨マハ其ノ抗日、排日ハ容易ニ消滅スヘク而カモ對支政策轉換ハ今カ最適期ナリト思考ス
二、巷間英國ト蒋介石乃至南京政府トノ關係ニ付云爲スルモノアル處英國ハ唯ストラ支那ノ安定、繁榮ニ依リ世界各國カ利益ヲ受クルコトヲ希望スルノミニシテ別ニ蔣個人ヲ守立ツル意思モナク英國カ之ニ依リ何等利己的野心ヲ滿サントスル意思ナキコトハ斷言シ得ル所ナリ蓋シ支那ノ統一繁榮ニ依リ最利益ヲ受クルモノハ日本ナリ
三、學良乃至其ノ部隊カ露國ト通シ居レリト云フコトハ信セラレス陝西方面ニ共匪及赤化分子ノ存在スルコトハ事實ナルモ支那ノ所謂共匪ナルモノハ第三「インターナショナル」指導下ノ露國共產黨

外務省

S 161527

024

員トハ其ノ趣ヲ異ニシ困窮セル多數ノ所謂流民ニ過キズ之ヲ以テ
露國ト通シ居レリト斷定スルハ早計ナルヘシ支那カ聯俄容共政策
ヲ採ルカ如キハ想像シ得サル所ナルモ日本カ餘リニ支那ニ重壓ヲ
加ヘ虐メルカ如キコトアレハ支那モ己ムヲ得ス露國其ノ他ト手ヲ
握ルコトアルヘシ支那カ聯俄容共政策ヲ採ルト否トハ一ニ日本ノ
態度如何ニ懸ルモノト思考ス(續ク)

外務省

S 161527 025

極秘

電信課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 三〇六 暗 北平 八日後發 亞 本省 一月八日夜着

有田外務大臣

加藤書記官

第一一號ノ二(極秘)

四蔣介石南京歸還ニ當リ蔣カ學良ノ抗日ニ關スル要求ヲ容レタリト
ハ思ハレス又蔣乃至南京政府ニ於テモ此ノ際對日態度ヲ改メ抗日
ヲ^強理化スルカ如キコトハ想像セラレス尙學良ノ生命保障方ニ付テ
ハ日本側ハ參加セサリシモ英國ハ佛、米、伊ト共ニ南京政府ニ提
議シタルニ南京側ヨリ何等斡旋要求ナカリシ爲其ノ儘トナレリ
五英國民ハ日英同盟ハ解消シタルモ其ノ精神ヲ忘レス相互協調以テ
極東ノ平和ノ爲盡シ度キ考ナルカ支那ニ於ケル日本ノ行動殊ニ北

外務省

S 161527 026

寫送先

秘書官 會計 文書 人事 調查 文書 情報 條約 通商 米洲 歐亞 東亞

大臣 次官

電信課長



支及綏遠問題ニ付英國側ニテ了解シ得サル點モアリテ爲ニ多少英國側ノ感情ヲ刺戟シ居ルモ何レ早晚支那問題ニ關シ日英關係ハ明朗化スルコトト思ハル元來支那ハ廣大ナル國家ナレハ當分支那ニ於テ日英ノ利益カ衝突スルカ如キコトナカルヘシ

六本官ノ質問ニ對シ西藏及新疆ニ於ケル英露ノ勢力範圍相互確認（貴電合第六號）ニ關シ兩國間ニ話合行ハレ居ルカ如キコトハ自分ニ於テ何等承知セス右ハ單ナル臆測邪推ニ過サルヘジトテ全然否定セリ尙同大使ハ來週木曜（十三日）南京ニ赴キ英國皇帝戴冠式當日ハ同地ニ居ル必要モアリ結局五月中旬頃迄滞在スルコトトナルヘキ旨語り居タリ

支、上海大使、在支各總領事へ轉電セリ

外務省

S 161527

027

昭和12 二九八 暗 上海 八日夜發 一月八日夜着

有田外務大臣

第六號

支發閣下宛電報第一一號ニ關シ

市政府陶孝潔（出所秘）ハ七日館員ニ對シ今回蔣介石ノ歸還スルヲ得タルハ學良カ宋子文ノ説得ニ服シ楊虎城初メ舊東北軍ノ過激分子ヲ出シ拔キ蔣介石ヲ逃シ自分モ西安ヨリ逃出シタルモノニシテ楊虎城等ト蔣介石乃至中央トノ間ニ完全ナル妥協成立セルモノニアラス（此ノ點客年往電第六二二號吳市長ノ本官ニ對スル談話中ニ學良ハ早ク悔悟セルモ楊ハ未タ悔悟シ居ラスト洩ラシ居タルト符合ス）故

河相總領事

外務省

S 161527

028

ニ楊虎城、于學忠、王以哲等ハ蔣歸還後モ中央ノ命ニ服セス客年末
再度兵變ヲ起シテ學良直系ノ百五師劉多荃等ノ軍隊ヲ西安ヨリ驅逐
シ且中央系人物ヲ全部陝西ヨリ追出シ反中央的態度ヲ明カニシタル
モノニシテ陝西ト中央トノ聯絡通信ハ目下全然絶エ居レリ中央ニ於
テハ願祝同ヲシテ之カ壓迫鎮撫ニ當ラシメ居リ一方學良ハ六日西安
善後問題ニ關シ蔣ト打合ノ爲極秘裡ニ奉化ニ飛ヘリ中央カ積極的ニ
楊虎城等ヲ討伐シ得ス楊及于學忠ヲ免職シ乍ラ其ノ問責問題ヲ未決
ノ儘トシ置キ又楊ノ部下孫蔚如ヲ陝西主席ニ任命スル等之カ懷柔鎮
撫工作ニ努メ居ルハ楊カ閻錫山、韓復榘、宋哲元及廣西派ト默契ア
ルヲ惧レ居ル爲ニシテ蔣介石ハ目下頗ル之カ對策ニ苦慮シ居リ蔣ハ
一箇月ノ休暇ヲ取り奉化ニ引籠リ居ルモノナルカ西安善後問題カ目

外務省

S 161527

029

鼻付ク迄ハ出馬セサルヘシ云々ト内話セル趣ナリ何等御參考迄
支、北平、在支各總領事ヘ轉電シ、上海大使ヘ轉報セリ

外務省

S 161527

030

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 三〇三 暗、漢口 一月八日夜着

情、亞

有田外務大臣

三浦總領事

第一〇號

國民政府ノ西安事件ノ善後措置ニ關シ漢口特別市黨部ハ一月七日附各新聞社ニ對シ左記要綱ニ依リ宣傳スヘキ旨密令セル趣ナリ御參考

記

一、西安事件ニ對スル中央ノ措置ニ付同意ヲ表示スルコト

二、政府ハ學良ノ部隊ヲ整理シ反動分子ノ煽動ヲ受ケサラシムルト共

ニ叛亂部隊ニ對シ既往ノ封建思想ヲ打破シ中央ニ服從センコトヲ

外務省

S 161527

031

希望スルコト

三、學良ノ特赦ニ付テハ國民トシテモ感激スル所ナルカ軍事委員會ノ

取締ニ對シテハ誠意ヲ以テ服從スヘキコトヲ勸告スルコト

四、中央今次ノ措置ハ東北軍トシテモ感激スル所ナルヲ知ラシメ且今

後ハ三民主義ヲ奉シ中央ノ命ニ服從國家精銳ナル部隊ト成ランコ

トヲ勸告スルコト

五、政府ノ陝西甘肅軍整理ニ對シテハ一致シテ之ヲ支持スルコト

六、楊虎城軍ニ對シテハ中央ノ命ニ服シ軍規ヲ肅正シテ國家ノ精銳ナ

ル部隊トナリ且軍費ノ横取りヲ爲ササル様勸告スルコト

支、上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ

南京大使ヨリ南京へ轉報アリタシ

外務省

S 161527

032

極秘

電信課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 官

昭和12 二八五 暗 廣東 一月八日後着

有田外務大臣

第二號 (極秘)

中村總領事

亞

近ノ密電要領ニ依レハ
宋子文ハ今後ノ對日外交ハ此ノ上謂ハレナキ誤魔化シト讓歩ヲ爲
スヘキニアラス國內政治ニモ亦同様明確ナル態度ヲ執ルヘキモノ
ナリトシ學良ノ主張ニ左袒シ居ルニ反シ蒋介石ハ依然從來ノ通り
ノ方針、順序ニ依リ進マント欲シ斯クスレハ引續キ責任ヲ負フヘ
シトノ意嚮ナリ兩名ノ主張ハ聊カ異ル所アルモ其ノ目的トスル所

松本

發送

外務省

S 161527

033

極秘

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書

本信照合要請入先

寫	送	先
類	項	目
0	0	0

昭和12 二八五 暗 廣東 一月八日後發

有田外務大臣

第二號 (極秘)

蔣介石歸來後ニ於ケル南京ノ政情ニ關シ孫科カ余漢謀ニ宛テタル最近ノ密電要領ニ依レハ

一 宋子文ハ今後ノ對日外交ハ此ノ上謂ハレナキ誤魔化シト讓歩ヲ爲スヘキニアラス國內政治ニモ亦同様明確ナル態度ヲ執ルヘキモノナリトシ學良ノ主張ニ左袒シ居ルニ反シ蔣介石ハ依然從來ノ通りノ方針、順序ニ依リ進マント欲シ斯クスレハ引續キ責任ヲ負フヘトノ意嚮ナリ兩名ノ主張ハ聊カ異ル所アルモ其ノ目的トスル所

中村總領事

亞

外務省

S 161527

033

ニ何等ノ相違ナキハ極メテ明確ナルヲ以テ既ニ三中全會ニ提出シテ討論スルコトニ決シタルニ依リ宋トシテモ恐ラク前説ヲ固執スルコトナカルヘク一方蔣モ暫ク休養ノ後ハ重ネテ辭職ヲ申出ツルコトナカルヘシ

ニ楊虎城ハ三十日附電報ヲ以テ罪ヲ請ヒ對日外交ニ於テ是非東省ノ回復ヲ目的トスヘシト要求越シタルカ其ノ他ノ事項ニ言及シ居ラス右ニ對シ中央トシテハ回答ヲ發セス學良ヨリ個人名義ニテ回答スル筈ナリ

三、尙甘肅、陝西ニ於ケル後始末ハ軍事委員會ニテハ學良ト協議シ居ルモノノ如ク孫科ハ同地方ニ於ケル軍事上ノ善後處置ニ付テハ學良ニ於テ軍事委員會ノ辦法ニ同意シ居ルヲ以テ將來問題化スルコ

外務省

S 161527 034

トナカルヘシト述ヘ居レリ（出所、内容極秘）
支、上海大使、北平、在支各總領事、滿へ轉電セリ
支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ、厦門ヨリ福州へ轉報アリタシ

外務省

S 161527 035

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文部 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 三五五 暗 上海 九日後發 本省 一月九日夜着

有田外務大臣

第一四號

川越大使

亞情

當地支那人筋ニ於テハ蔣介石ノ西安脫出ニ當リ張學良トノ間ニ政府ノ改造又ハ政策ノ變更等ニ關スル妥協アリタリト信スル者殆トナキ模様ナルモ楊虎城及張學良部下ノ中ニハ尙不穩分子アリ急速ニ西安方面ノ事態ヲ收拾スルコトハ困難ナルヘシト觀測スル者多ク甚タシキニ至リテハ若シ此ノ儘ニ推移スレハ共匪及楊、張兩軍ハ合體シテ陝西、甘肅方面ニ一勢力ヲ築キ往年ノ江西ノ如キ狀態トナルニアラサヤト憂慮スル者モアル處當地滯在中ノ孔祥熙ハ八日清水カ此ノ點

外務省

外務省

S 161527 036

ヲ指摘シテ質問シタルニ對シ自分(孔)モ同様ニ心配シ居ル次第ナルカ政府トシテハ廣西、湖南、四川其ノ他(河北、山西、山東等)ノ方面ノ情勢ヲモ顧慮スル必要アリ極端ニ言ヘハ日下國內ハ危機四伏ノ狀態ニアルヲ以テ簡單ニ東北軍及楊虎城軍ヲ片付ケ得サル苦境ニ立チ居ル譯ナリ要スルニ各地軍隊ノ少壯幹部ノ間ニハ相當強キ抗日思想アリ之ヲ謂レナク壓迫スルコト困難ナルニ附込ミ地方軍閥カ之ヲ利用シテ政府攻撃ニ用ヒントスル有様ナルヲ以テ中央モ下手ニ手ヲ下スコト出來サル次第ナリト答ヘタルカ其ノ際孔ハ解放日報ニ掲ケタル蔣、張妥協云々ノ記事ニ付テハ一笑ニ附シ居タル趣ナリ支、北平、在支各總領事ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ廣東ヨリ香港ヘ、厦門ヨリ福州ヘ轉報アリタシ

外務省

S 161527 037

電信課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 三三九 暗 南京 九日後發
本省 一月九日後着

有田外務大臣

第一八號

川越大使

亞

九日「マツクダニエル」ハ須磨ニ對シ

一月四日西安ニテ中央側飛行機十臺ヲ修理ノ上洛陽迄持歸レル杭州
飛行學校最高顧問米人「ワインバツグ」ノ同人ニ對スル内話ニ依レ
ハ西安ハ數箇所ニ「ソビエツト」旗翻リ居リ學生ノ共產宣傳游行サ
ヘ行ハレ弛化ヨリ十二月中旬來着セリト言フ赤露士官三名アル外西
安事變三日前來着セル米國婦人共產黨員「アグネス、スメドレー」
及英國共產黨員「キャプテン、ジョーンズ」(學良ノ秘書)等カ城

外務省

S 161527 038

内楊虎城ノ衛戍本部ニ住居シ宣傳ニ當リ居リ西安一帶ハ不安ノ氣漲
リ中央及學良ニ對スル反對ノ聲盛ナル趣ナリト述ヘ居タリ
上海大使、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ
上海大使ヨリ上海ヘ、廈門ヨリ福州ヘ轉報アリタシ

外務省

S 161527 039

大臣 次官

電信課長

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 會計 秘書官

寫送先

昭和12 三九七 略 漢口 九日後發

本省 一月十日發着

亞

有田外務大臣

三浦總領事

第一二號

往電第一〇號ニ關シ

湖北省黨部ハ八日全國各機關、團體、學校ニ對シ中央ノ西安事件ニ對スル措置ハ極メテ公正ナルヲ以テ全國一致之ヲ支持スヘキ旨通電シ又同日漢口各團體ハ中央黨部、國民政府及軍事委員會宛右ト同様趣旨ノ電報ヲ發シ楊虎城、于學忠ニ對シテハ速ニ政府ノ命ニ從ヒ措置スヘキ旨電報セリ
支、上海大使、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ
支ヨリ南京ヘ、上海大使ヨリ上海ヘ、厦門ヨリ福州ヘ轉報アリタシ

外務省

S 161527

040

大臣 次官

電信課長

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 會計 秘書官

寫送先

昭和12 四四八 暗 北平 十日發

本省 一月十一日夜着

亞

有田外務大臣

加藤書記官

第一八號ノ一

西安事變ニ關シ吳鼎昌ノ談話ナリトテ王克敏ノ西田顧問ニ對スル内話（一月七日）要領左ノ通り

件概要
二十六日蔣介石南京ニ於テ各部院長等ヲ引見ノ際發表セル西安事

件概要
蔣ハ東北軍ニ不穩ノ形勢アルヲ看取シ十二月四日洛陽ヨリ西安ニ赴キ之カ處置ヲ考慮中八、九日頃ニ至リ形勢愈惡化蔣暗殺ノ氣配サヘ見ヘタルニ付蔣ハ之ヲ避クル爲華清池ニ赴ケリ之ヨリ前蔣ハ

外務省

S 161527

041

寫送先

秘書官 會計 文書 人事 調查 文書 情報 條約 通商 米洲 歐亞 東亞

大臣 次官

電信課長



昭和12 四四五

暗

北平 十日後發
本省 一月十一日夜着

亞

有田外務大臣

第一八號ノ二

加藤書記官

次テ十一時半頃學良ハ極メテ險惡ナル面持ニテ蔣ヲ訪レ「愚ナル行動ヲ止メヨ、貴下ハ余ト行動ヲ共ニセラレ度シ、若シ余ヲ行動ニシテ宜シカラストスルナラハ出直シ（生レ代ルノ意）來ルヘシト言ヘルヲ以テ蔣ハ「汝ニシテ余カ汝ノ長官ナルコトヲ認ムルニ於テハ速ニ我命ニ從ヒ余ヲ南京ニ返送セヨ然ラスンハ汝ノ意ノ儘ニ余ヲ處置セヨ」ト極メ付ケタルニ張ハ八項ノ條件ヲ示シ署名ヲ求メタルモ蔣ハ之ヲ拒絕セリ其ノ後學良並ニ白營長等交々來リテ

S 161527

043

外務省

東北軍ノ不穩情勢緩和ノ爲張學良ニ對シ未拂軍費ノ交付外一件ニ關シ覺書ヲ以テ約スル所アリシモ張ハ之ヲ部下ニ傳ヘ居ラサルヲ知り十一日午後四時蔣ハ東北軍將領ヲ招キ直接傳ヘントシタルニ張ハ稍時刻ニ先立チテ來リ種々不平ヲ洩ラシタルカ各將領モ來着シ宴席ニ於テ軍費支給等ヲ披露シ六時半頃散會蔣ハ衛士五十六名ニ守ラレ宿ニ戻リタル處翌十二日午前四時半頃東北軍ハ突如之ヲ包圍シテ機關銃ヲ以テ亂射蔣ハ衛士七名ヲ伴ヒ壁ヲ越エテ草中ヲ匍匐裏山ノ墓地内ニ漸ク難ヲ避ケタル處九時半頃土民ニ發見セラレ張學良軍ノ一營長白某ノ爲西安綏靖公署ニ護送セラレタリ

(續ク)

S 161527

042

外務省

住所ノ移轉及要求承認ヲ求メタルモ果サス十四日午後「ドナルド」
來リテ其ノ家ニ轉所ヲ勸メタルヲ以テ始メテ之ニ同意シ「ド」ノ
家ニ赴キタルニ意外ニモ張學良ノ私邸ニ案内セラレタルカ其ノ後
宋子文來リテ二十五日飛行機ニ依リ洛陽ニ歸來セリ
蔣ハ右發表後今後ノ對策ニ關シ左記三項ヲ表示セリ
① 今回ノ事件ハ事態頗ル重大ナルヲ以テ主トシテ中央政府ニ於テ
解決方法ヲ講シ三中全會ニ於テ決定スヘシ
② 自己ノ過誤ヲ認メ中央ノ處分ヲ要求スルト共ニ身體著シク疲勞
シ居ルヲ以テ辭職シ度ク最少限度六箇月ノ休暇ヲ欲ス
③ 學良ハ重大犯人ナルモ悔悟速ニシテ余ヲ南京ニ送還シタルニ付
寛大ナル處分ヲ要請ス

外務省

S 161527

044

ニ右ニ對シ馮玉祥ハ學良處罰方ヲ主張シ不滿ノ意ヲ表シタルモ其ノ
儘散會セリ(續ク)

外務省

S 161527

045

電信課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 四四七 暗

北平 十一日前發
本省 一月十一日夜着

亞

有田外務大臣

加藤書記官

第一八號ノ三

三、事件後ノ軍事情勢

イ、事件發生後學良ハ楊虎城ノ部下馮欽哉ニ潼關ノ占領ヲ命シ一方洛陽ニアル東北軍ノ一團ニ對シ洛陽ノ兵工廠ノ占領及行營ノ封鎖ヲ電命セルカ洛陽前敵總指揮樊崧甫ニ探知セラレ機先ヲ制セラレ實行ニ至ラス現在樊部隊ハ臨潼附近迄進出シ來リ馮部ハ其ノ西ニ接シ東北軍ト中央トノ間ニ一種ノ緩衝地帶ヲ形成シ大ナル戦闘ナキモ十二月二十九日中央軍ハ密ニ動員シテ兵ヲ潼關

外務省

S 161527

046

附近ニ集中シ本月五日前哨ノ衝突アリタリト言ハル
ロ、今後ニ於ケル中央ノ軍事解決策

(一) 學良軍ト楊虎城軍トノ間ニ分解作用ヲ起サシムルコト即チ楊ノ部下孫蔚如ヲ陝西主席トシ于學忠ヲ甘肅主席トシ此ノ間ニ甘肅綏靖主任トシテ王樹常ヲ置キタルハ彼此分離對立セシムル爲ナリ

(二) 中央軍中甘肅、寧夏省境ニアル胡宗南部及甘肅、陝西方面ニアル毛炳文部等三、四萬ハ何レモ孤立ノ狀態ニアル處之カ救出乃至東北軍解決策ニ利用方ニ付テハ決定シ居ラサルモ蘭州ニアル胡部ノ二團ハ武装解除セラレ參謀長及副官長ハ抑留セラレ居ル爲中央軍ニ於テ衝突ヲ避ケ居ルモ結局一戰ハ免レサ

外務省

S 161527

047

寫送先

秘書官 會計書 文書事 人查事 調査化 文情報 條約商 通商洲 米亞 歐亞 東亞

大臣 次官

電信課長

有田

昭和12 四一九 暗

上海 十一月十一日 後發
本省 一月十一日 夜着

有田外務大臣

川越大使

第一六號ノ一

西安方面ノ形勢猶樂觀ヲ許サス中央政府ノ之ニ對スル前後措置抄々
シク進行セサル爲一般ノ政局ニモ少カラス不安ノ空氣ヲ醸シ居ル模
様ニテ三中全會前後ノ各方面ノ動キハ相當注意スル必要アリト思惟
セラルル處右ニ關シ許卓然其ノ他當地要人カ清水ニ内話スル所ヲ綜
合スルニ大要左ノ通り
一、政府ノ改組ニ付學良ト政府トノ間ニ妥協アリタリトハ信セラレサ
ルモ政局ノ安定ヲ圖ル意味ニ於テ政府部内ニ多少ノ異動アルヤモ

格
發送済

外務省

S 161527

049

外務省

S 161527

048

寫送先

秘書官 會計書 文書 人事 調查 文書 情報 條約 通商 米洲 歐亞 東亞

大臣 次官

電信課長



昭和12 四二二 暗

上海 十一日後發
本省 一月十一日夜着

亞

有田外務大臣

第一六號ノ二

川越大使

汪ノ復歸ハ政府部内ニ相當反對多ク殊ニ于右任、居正、孫科等ハ
反對ノ急先鋒ニシテ其ノ實現ハ極メテ困難ト見テ居レリ之ニ反
シ宋子文ハ財界ノミナラス西南、山東等ノ地方軍閥ニモ關係ヲ着
ケ胡漢民沒後ノ同一派ヲ抱込ミ最近ハ陳果夫、陳立夫トモ親密ナ
ル關係ニ戻リ居リ其ノ勢力ハ侮ルヘカラサルモノアリ若シ院長更
迭トモナラハ同人ノ就任ハ可能性最多カルヘシ
ニ宋カ政府部内ニ入込メ、張公權、吳鼎昌等ノ辭職ハ必至ト見ラレ

外務省

S 161527

051

測リ難シ其ノ際問題トナルハ行政院長ノ更迭ニシテ當地ニ於テモ
(一) 暫ク現状ノ儘ニテ進ムナラン
(二) 孔祥熙、汪精衛或ハ宋子文院長トナルヘシ
(三) 汪院長トナリ宋財政部長トナルヘシ
等種々ノ觀測行ハレ居ルカ孔ヲ此ノ儘トシ又ハ院長ニ昇格セシム
ル等ノ方法ニ依リ同人ヲシテ從來通り行政院ヲ主宰セシムルコト
ハ最無難ナリ(續ク)

外務省

S 161527

050

寫送先

大臣 次官 東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

電信課長



昭和12 四二三

暗

上海 十一月十一日 午後發
本省 一月十一日夜着

亞

有田外務大臣

川越大使

第一六號ノ三

但シ一部ニハ内々斯ル意圖ヲ抱ク者モアリ今後ノ情勢殊ニ日本ノ
出方ニ依リテハ益々斯ル機運ヲ助長スルニ至ルヤモ測リ難シ此ノ
際日本トシテハ暫ク事態ノ推移ヲ靜觀スルニ止メ徒ニ支那ヲ刺戟
シテ事態ヲ惡化スルカ如キ態度ヲ執ラサルヲ得策トスヘシ
四日支國交調整ノ交渉モ今日ノ如キ事態ニテハ繼續スルニ由ナク若
シ日本側ヨリ持出ストキハ政府ニ於テ之ニ取合ハサルハ勿論却テ
一般ノ誤解ヲ招クコトトナリ面白カラス少クトモ三中全會ノ形勢

外務省

S 161527

053



大體歐米派ノ擡頭ヲ促スヘキモ元來宋ハ孔ト異ナリ責任感ノ強キ
男ニテ話ノ筋道サヘ立テハ實行スル性質ナルヲ以テ日本側ノ態度
及出方如何ニ依リテハ日本トノ協調ノ望全然ナキ譯ニハアラサル
ヘシ

三、中央政府カ今直ニ容共聯俄政策ヲ執ルヘシトハ信セラレス（續ク）

外務省

S 161527

052

寫送先

秘書官 會計書 文書 人事 調查 文書 情報 條約 通商 米亞 歐亞 東亞 官

次大臣

電信課長



昭和12 四四二 暗 上海 十一月十一日 後發
 本省 一月十一日夜着 亞

有田外務大臣
 第一九號 川越大使

中國共產黨員ヨリ聞込ミタル諜報ニ依レハ于學忠軍及楊虎城軍ハ既ニ相當程度赤化シ于學忠ハ其ノ中心人物トシテ推戴セラレ居リ本月十四、五日頃ニハ西安ニ「ソビエト」政府ヲ組織スル豫定ナル處若シ國民政府カ強硬ナル態度ニ出テス于、楊兩軍隊ニ手ヲ着ケサルニ於テハ暫ク右政府ノ正式設立ヲ見合ハスヘキモ萬一討伐令出ツルニ於テハ直ニ政府設立ノ宣言ヲ發出スル手順ヲ整ヘ居リ尙學良ニ對シテハ全然相手トナラス從テ其ノ去就ノ如キハ敢テ問題トセス于ヲ擁

外務省

S 161527

055

ヲ見テ善處スルノ外ナカルヘシ
 五要スルニ西安事件ニ於ケル學良ト蔣介石トノ妥協條件ノ有無等ハ問題ニアラス現實ニ動キツツアル支那ノ大局ヲ注視シ其ノ動向ヲ把握シテ其ノ對策ヲ樹ツルコト日本トシテ執ルヘキ途ナリト思惟ス

北平、支及在支各總領事ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ
 廣東ヨリ香港ヘ、廈門ヨリ福州ヘ轉報アリタシ

外務省

S 161527

054

寫
送
先

秘書官
會計書
文書
人事
調查
文書
情報
條約
通商
米洲
歐亞
東亞

次
官
大臣

電信課長



昭和12 四四六 暗

南京 十一月十一日 後發
本省 一月十一日夜着

亞

有田外務大臣

第二四號

川越大使

本十一日高宗武ハ須磨ニ對シ楊虎城ノ反中央態度愈鮮明トナリ在京
中ノ學良ニモ働キ掛ケ居ル爲數日前ヨリ學良ヲ軟禁狀態ト爲シ一方
軍事委員會ハ既ニ華縣、渭南方面ニ集中セル約十箇師ニ對シ西安攻
撃ノ準備ヲ急カシメ居ル處大體二月十五日ノ三中全會ニ於テ討伐ヲ
決議シタル上實行ノコトトナル模様ナリ他方十四日着滬ノ筈ナル汪
兆銘ニ對シ蔣介石ヨリ中央政治會議ノ主席ト同時ニ汪ニ於テ行政院
長トナル様電報セルニ一昨日汪ヨリ何レ着京ノ上決定シ度シト同電

12/11/16 發送済

外
務
省

S 161527

057

外
務
省

S 161527

056

シテ既定ノ方針ヲ實行スル豫定ナリトノ趣ナリ宣傳モアルヘキモ御
参考迄
支、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ

アリシカ大體直クニハ汪ノ就任ヲ見得サル事情アル如ク結局王寵惠
位ニ廻ルコトトナルヘシト述ヘ居タリ
上海大使、北平、在支各總領事、滿へ轉電セリ
上海大使ヨリ上海へ、厦門ヨリ福州へ轉報アリタシ

外
務
省

S 161527

058

REEL No. A-0869

0036

アジア歴史資料センター

寫送先

目録
書官計書

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文書
調查
人事

大臣
次官

電信課長

昭和12

四五〇

暗

北平
本省

十一月十一日
夜着

亞

有田外務大臣

加藤書記官

第二一號

西北軍事情勢ニ關シ十一月王芳亭ノ西田顧問ニ對スル内話要領左ノ通り

一、舊東北軍及楊虎城軍ハ中央ノ事變ニ對スル善後措置及學良ノ處分等ニ付不滿ヲ懷キ互ニ其ノ結束ヲ鞏固ニスル一方共產軍トノ關係緊密化ヲ計リツツアリ尙蔣介石ノ西安脱出ハ學良ト宋子文トノ話合ノミニテ行ハレ豫メ楊及學良軍將領トハ充分ノ打合ナカリシ趣ニシテ從テ學良個人ニ對シテハ大ナル期待ヲ懸ケス兩軍自體ニ於

外務省

S 161527

059

電信課長

大臣

次官

東亞

歐亞

米洲

條約

情報

文化

調査

人事

本信照合票挿入先

密書	0
官	
類	
項	
目	

寫送先

昭和12 四五〇

暗

北平 十一月十一日後發
本省 一月十一日夜着

亞

有田外務大臣

加藤書記官

第二一號

西北軍事情勢ニ關シ十一月王芳亭ノ西田顧問ニ對スル内話要領左ノ
通り

一、舊東北軍及楊虎城軍ハ中央ノ事變ニ對スル善後措置及學良ノ處分
等ニ付不滿ヲ懷キ互ニ其ノ結束ヲ鞏固ニスル一方共產軍トノ關係
緊密化ヲ計リツツアリ尙蒋介石ノ西安脫出ハ學良ト宋子文トノ話
ノミニテ行ハレ豫メ楊及學良軍將領トハ充分ノ打合ナカリシ趣
シテ從テ學良個人ニ對シテハ大ナル期待ヲ懸ケス兩軍自體ニ於

外務省

S 161527

059

テ將來ノ活路ヲ開カントスル傾向アリ兩軍ノ反中央態度ハ愈濃厚トナリツツアリ

馮欽哉ハ中央側ニ傾カントスルカ如キ態度ヲ示シ居ルモ其ノ部下ハ楊虎城ノ指揮ニ從ヒ居ル事情アリ同軍ノ去就ハ豫測シ難シ

ニ、陝甘省内中央軍ノ狀況

(イ) 陝甘省境ニ在ル毛炳文軍ハ四川方面ニ向ヒ脱出シツツアリ

(ロ) 胡宗南ノ司令部及一部軍隊ハ襄ニ蘭州ニ於テ共匪ノ策動ニ依リ于學忠軍ノ爲武裝ヲ解除セラレタルカ其ノ主力部隊ハ目下甘寧

省境ニ於テ共匪軍ノ爲包圍セラレ居レリ

三、中央ハ舊東北軍及楊虎城軍トノ間ニ妥協策ヲ講シツツアルモ共產軍ノ幹部ハ既ニ西安ニ入込ミ居ル等ノ次第モアリ中央ハ妥協困難

外務省

S 161527 060

ト見武力解決ニ決定シタルカ如ク既ニ臨潼方面ニ於テ進撃體勢ヲ執リ居ル處武力解決ハ四川及西南方面トノ關係並ニ共匪ノ山西進出ノ氣配モアルヲ以テ事態ノ擴大ハ免レサルヘシ

支、上海大使、滿、在支各總領事へ轉電セリ

支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

外務省

S 161527 061

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和12 五一五 略

香港 十二月後發
本省 一月十二日夜着

亞、情

有田外務大臣

水澤總領事

第二號

當地華商總會ハ西安事件ノ際張學良ニ宛テ蔣釋放方勸告電ヲ發セル
ニ對シ張ヨリ十二月三十日「蔣ハ滯留ニ週間ニシテ余ノ救國意見ヲ
全部採納セル爲之ヲ釋放セリ」ト回電シ來リ（三十一日漢字紙掲載
タルカ右電文ハ西安事件ノ結果ニ關スル南京政府發表トハ正反對ナ
ルニ拘ラス總商會カ之ヲ發表シタルハ不都合ナリトテ同會主席及祕
書長ノ責任問題惹起シツツアル趣ナリ張、蔣妥協ノ内容カ疑惑ノ種
トナリツツアル際ニモアリ御參考迄

外務省

S 161527

062

支、上海大使へ轉電シ、廣東へ暗送セリ
上海大使ヨリ上海へ、支ヨリ南京へ轉報アリタシ

外務省

S 161527

063